



秋

私たちにとっての「御苑の聖域度」

塚本 圭一

ある時、私は「歩く京都」という発想をもった。それは「チョウの飛ぶ街」と「歩くポストン」からの発想であった。京都にはチョウが数多く生息している。チョウの飛ぶ地域とは、すなわち自然が豊富で環境に多様性がある地域である。京都は自然と共生している街なのである。二つ目の「歩くポストン」という発想。これはポストンでは道路に赤い線が引かれている場所がある。約四キロメートルに渡るこの線は、「フリーダムトレイル」と呼ばれ、主要な観光地を結んでいる。いわば観光の道だ。京都もポストンと同じように、観光が主要な産業の町である。

京都の道とは、生きものたちの自由な道。天地人の生態回廊として、人と生きものが共有する道であると同時に、歩いて楽しむことができる「フットパス」なのではないだろうか。



自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
一般財団法人 国民公園協会
京都御苑 加藤博之

編集
白川書院

監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は再生紙を使用しています。



凝華洞跡のイチヨウ

人それぞれの御苑の秋の日

私にとって御苑は子供の頃からの遊び場であり、聖域であった。なぜ聖域であったかについては、家族のものがそう思っていたからだろう。物心がついて私なりに聖域の意味がわかってきた。それは、人にとっても生きものにとってもいいのちの聖域・サンクチュアリであった。

時が流れ、いま私は一人の研究者であり、御苑の自然の語り部である。

御苑のいのちの創る風景は、訪れる人のありかのようにあわせてくれるかのように日々刻々に変貌する。晴れの日ももちろん、曇り・時雨など、それぞれに不思議な発見がある。春



ムラサキツバメ (川合正豊・撮影)

から梅雨に、そして酷暑の夏にもどこかにいのちの創る風景があった。夏の日には森の精、御苑のニューフェイスのミズイロオナガシジミが夕暮れのわずかな光りのなかで葉上に静止していた。迎賓館の東、染殿井の森では、ジョウウグモが小さな水滴で光りの造形を楽しんでいた。

子どもたちも「私だけの時」を持つ。屈み込み、両手いっぱい黄葉をつかんで青い空に向かって放りあげ、葉が「私の上から降ってきた」と、嬉しそうであった。歩いていけば、どこでも、陽はあわただしく光りの時と蔭の時を繰り返す。旅のご夫妻が、カメラを向ける。うまい具合にどこか近隣の保育園の小遠足だ。女の子は拾い集めた袋いっぱい黄葉を見せに来る。「すごい、宝物だね」、彼女は本当に嬉しそうだ。ビニール袋で滑走しようとして、二人で袋の中に入ろうとする子ども達もいる。良い日だ。

御苑の聖域度は上昇する。いま、美しい命で一杯だ。母と子の森では夏の終わりの日には、ヤブミョウガの葉上に森の精・ムラサキツバメやムラサキシジミが朝の静けさのなかに翅を休める。飛び立てば光の中でその姿を見失う。「光学迷彩だ！」そういえば、夏にはヤナギの木のあるあたりには紫色の光を放ちながらコムラサキが飛んでいた。これも「光学迷彩」だろうか？いや、「位置迷彩」だと考える。構造色をもつ昆虫類は光の中で瞬間姿を消してしまう。「さようなら」と。

(京都自然観察学習会)
(注)
フットパス 森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しむながら歩くことができる小径のこと。イギリス発祥。
光学迷彩 擬似的な透明化によってカモフラージュをする技術や装備のこと。
構造色 見る角度に応じて様々な色彩が見られる発色現象を指す。



母と子の森のカエデ

拾翠亭と香

私達は、お香を少しでも楽しんでいただきたいと思ひ、拾翠亭をお借りしての香会を、春と秋の年二回開催しました。御所の四季折々の自然と香りの世界の融合は、本当にとってもすばらしいものがございます。

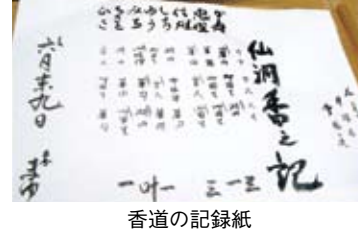
ここで友人の拾翠亭での香会に参加してのコメントを紹介させていただきます。『：最初は作法も何もわからなかったのですが、不安もありましたが、教えていただきながら見よう見まねで、お香のおおりに楽しみました。九條池畔にある拾翠亭は、九條家の茶室として建てられたもので、木々の若葉や紅葉、室内を吹き抜ける風など、江戸時代のお公家さん達もきっと、こんなすてきな風景を楽しんだのだらうと、京都の街中に行くと忘れ、ごしてありますが、聞香会に参加するとゆつたりと時間が流れ、身も心も洗われる様な気がします。これからも、正解にこだわらず香りを楽しみたいと思ひます。』

最後に、私達にも利用することができ、事に感謝申し上げますと共に、この香りの世界を体験していただく機会があればと思っております。

(志野流香道講師)



拾翠亭での香会



香道の記録紙



香りを楽しみ、和やかな雰囲気で行われる

拾翠亭と香

広江 真由美

催事案内

■平成24年京都御苑自然教室

一般の方を対象とした自然教室の今後の予定は、下記のとおりです。都市の中で貴重な緑をもつ御苑で、秋の自然を観察しましょう。

秋の自然教室「秋の御苑にふれよう」

11月18日(日) 9:30~12:00

主催 環境省京都御苑管理事務所 TEL075(211)6348
一般財団法人 国民公園協会 京都御苑 TEL075(211)6364

講師 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。
内容 秋の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集合場所 京都御苑 石薬師御門前 (上京区京都御苑内北東門)

受付時間 当日 9:00~9:20

参加費 保険料100円

その他 筆記用具をご持参下さい。

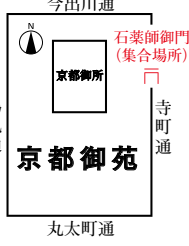
手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があると便利です。

*以降自然教室予定

冬の自然教室「冬の御苑にふれよう」

平成25年1月27日(日) 9:30~12:00

詳細は次号でお知らせします。



ナニワトンボ

トンボ池のいきものノート

谷 幸樹

トンボ池は、四季を通じて多くの生き物が生息しています。このトンボ池が造られたのは、今から十八年前の一九九四年です。その頃はガマだけだったのではありません。この池を造成する時に苑内の九條池と閑院宮跡の池の浚渫土が利用されました。昔、閑院宮跡池には、ハスが生育

していましたが、近年は生育が確認されていませんでした。しかし、造成したトンボ池の環境が、ハスが生育するのに適したようになり、土の中で眠っていた種子が発芽したと考えられます。休眠していたハスが目覚めた例として大賀ハスが有名です。大賀ハスは一九五一年に千葉市花見区朝日ヶ丘町にある東京大学検見川厚生農場の落合遺跡で発掘されました。ハスの実は今から二千年前の弥生時代以前の古代のハスの実を大賀一郎博士が発芽育成して開花させました。このようにハスは生育する環境条件が、整うまで休眠する事がわかってい



マクタアカネ

ます。トンボ池や水田等で六月から七月に羽化した成虫は、一斉に山に向かつて飛び立ちます。トンボ池で羽化したアカネ

このアカアカネの一生は、大移動する事です。知られていません。トンボ池や水田等で交尾をして産卵します。卵で冬を越し三月頃にふ化して、幼虫になります。ナツアカネはアカネのように大移動はしません。アカネは、おそろしく比較的山・大文字山・比良山等の山頂近くに移動していると思われませんが、まだトンボ池から羽化した個体であると誰も確認していません。夏の間涼しい山で過ごし、成熟したアカアカネは、秋風の吹くころに一斉に山を下り、トンボ池や水田等で交尾をして産卵します。卵で冬を越し三月頃にふ化して、幼虫になります。



アカアカネ 鷹司邸跡



ナツアカネ

ナニワトンボは、アカネ属に入っています。が「青い赤トンボ」として知られています。この種は京都府レックドデータブックに載っている準絶滅危惧種でなかなか見られませんが、トンボ池で記録されています。いつでも見られる種ではなく珍しい

トンボ池ですが、もし巡り合うことができれば幸運だと思います。トンボの天敵としては、オオカマキリやジョロウグモがいて、捕まっているのをよく見かけます。このようにいろいろな生き物がいるトンボ池は、生物多様性に富んだ良い環境です。これからも大切に環境保全をしていかねばと思っています。

ハスが繁茂している時のトンボ池

ハスが繁茂している時のトンボ池

京都御苑 銘菓選

御所煎餅

京都御苑、お持ち帰りの土産品に、味よし・価格もお手頃のお菓子「御所煎餅」(御所日記本舗販売)があります。蜂蜜と有精卵のたっぷり入った焼菓子でサクッとした食感も好評です。また、一袋、二枚入り個別包装も好評です。また、一袋、二枚入り個別包装も好評です。また、一袋、二枚入り個別包装も好評です。



御所煎餅
大箱 15袋入り 1,050円
中箱 10袋入り 750円
巾着 5袋入り 350円
賞味期限 90日間

菊華仙

「菊華仙」は、宝暦五(一七五五)年創業の京菓子の老舗、俵屋吉富が永年御用を賜って参りました京都御所の古典型的な優雅さにと、創作した麩焼煎餅でございます。砂糖醤油の蜜を引き、金箔と菊花紋焼印をほどこし、一層格調高く



ハスが繁茂している時のトンボ池



菊華仙
9枚入り 1,050円
18枚入り 2,100円
賞味期限 60日間

京都御所秋季一般公開

10月31日(水)~11月4日(日)

入場時間 9:00~15:30

入口: 宜秋門 (ぎしゅうもん)

出口: 清所門 (せいしょもん)

清所門の最終退出時間は午後4時15分

照会先: 宮内庁京都事務所 TEL: 075 (211) 1211

「閑院宮邸跡」見学

京都御苑南西角の創建以来の場所に建つ、「閑院宮邸跡」。収納展示室では、京都御苑の歴史や自然の資料が展示されています。苑内散策の折に是非お立ち寄り下さい。

収納展示室 午前9時~午後4時

休館日/月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館)、年末年始

御苑の花暦

| 和名 | 開花期 | 主に見られる場所 |
|--------|--------|---------------|
| ミヤギノハギ | 7月~9月 | 児童公園、凝華洞跡東側付近 |
| ヒガンバナ | 9月中旬 | 御苑内の各草地 |
| サザンカ | 11月~2月 | 児童公園付近 |

会員募集

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
年会費 ●普通会員 1,000円以上
●賛助会員 (会社・団体) 10,000円以上

会員への特典

1. 本会発行物をそのつど送付します。(御苑ニュースは会費収入で発行されています。)
2. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)

申し込み、問い合わせ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
住所 京都市上京区京都御苑3
〒602-0881 TEL.075(211)6364